

琉球大学学術リポジトリ

復帰準備（対内）（政府調査団派遣等）－防衛庁、
防衛施設庁－(3)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-01-29 キーワード (Ja): 復帰準備, 防衛庁, 沖縄調査団, 試射場 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43393

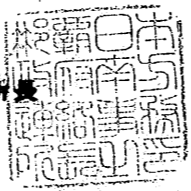
幹部候補生研修

北米局長
参事官
北米課長

總南連第1667号
昭和42年7月5日

總理府特別地域連絡局長 殿

那覇日本政府南方連絡事務所長



琉大構内への自衛隊立ち入りの件について

概記の件について、とりあえず次のとおり報告する。

- 1 目下、沖縄に研修のため来島中（6月29日来島、7月3日帰任予定）の陸上自衛隊幹部候補生学校（学校長上妻正康陸将補）の152名がバス（銀バス）4台で7月1日浦添村嘉敷、前田の職跡を見学した後、その一部35名がバスで同日、午後2時10分頃琉球大学附近の守礼の門及び旧第32軍司令部の観見学に立ち寄った。
- 2 琉球大学では、この日（7月1日）たまたま池原貞雄新学長の就任式があり、これに反対する同大学学生の一部が抗議集会を開催のため集っていた。
- 3 上記2の事情を知らなかつた前記自衛隊幹部候補生学校の一行

は、小城正二佐（陸上自衛隊調査学校）、福山厚明一尉（幹部候補生学校区隊長）引本の下に、森田大平氏（元陸軍大佐、陸上自衛隊幹部候補生学校教官文官、60才）の第32軍司令部職跡附近における戦史説明を受けたのち、更に森田氏が戦史説明のため琉大構内に入つていたので、これについていつた。

- 4 琉大の門には「告ぐ、部外の者の構内立ち入りは守衛に連絡してください 琉球大学」と書かれた掲示板があり、これに気がついた後尾の福山一尉は琉大守衛に連絡しかけたところ、森田氏が先頭に立つて進み、琉大構内の丘で約2分間位説明を行なつてしまつていたので間に合はず、直ちに、説明が終つて守礼の門付近に待たせてあつたバスに戻ろうとしたときに、琉大守衛室附近で抗議集会に集つていた学生約50名に取りかこまれた。
- 5 過激な学生の一部は「憲法違反の自衛隊が学園に入るとは何ごとか」といつたような野次をとばし、学生の扇動を行なつた。この異常な雰囲気昂奮した森田氏は「ここは何万という同胞の血を流したところである。」と激昂して学生をなぐるうと拳をより上げたので、福山一尉と自衛隊幹部候補生2名が森田氏をだまかかえ、同氏を拉致するように琉大構外に連れていきバスに戻つた。バスは首里高校の方向へ少し場所を変えていたので、残りの自衛隊候補生は4列縦隊でバスに戻つた。

要	送
送	送
課	長
英	河
渡	辺
川	中
森	山
須	川
中	田
橋	本
黒	須



6 森山氏を連れて戻る状態が異常であつたため、それを見た一般人が自衛隊が琉大学生に拉致されているものと思ひ、琉球警察本部の110番に急報し、連絡を受けた警察側では直ちにパトロールカー1台を琉大に急行せしめた。14時30分頃、現場附近に到着したこのパトカーはすでに自衛隊側が引揚げた後であつたが、事情が詳細分からないため、直ちに琉大構内に乗り入れたところ、学生連に取りかこまれ、パトカーからの連絡で、パトカー救出のため、琉球警察では直ちにパトカー9台と那覇署、機動隊合計50名の制服警官隊を琉大に派遣し、15時05分頃から実力行使に移つて学生を排除し、前記最初に現場急行したパトカーを救出した。このときの学生は前記過激派の学生約50名を中心に野次馬的に集つた者合計約200名とのことである。琉大学生側、自衛隊側および警察側のいずれにも負傷した者はなかつた。

7 同日(7月1日)午後3時20分頃、那覇警察署次長大田利雄警視から南速決務係へ電話で前記警官出動の概要の連絡があり、大田警視も自衛隊の琉大立寄りについての詳細事情が分からないとのことであつたので直ちに候補生学校幹部の宿泊先である那覇市開南通り、日光本館(ホテル)の西村三佐へ電話で南速側から照会したところ、当該学生(候補生)一行が帰着していないので西村三佐も事情不明とのことであつた。そこで、南速側としては、

西村三佐に事情確認次第、那覇署大田警視に連絡とるより依頼するとともに、大田警視にも自衛隊側へ照会し、事情判明後南速側へも連絡してくれるよう依頼しおいた。

8 その後、午後4時30分頃、自衛隊の責任者である

防衛庁陸幕第5部学校班

大津 琢之 二佐

同 大島 福徳 二佐

陸上自衛隊調査学校

小 城 正 二佐

幹部候補生学校第一候補生隊区隊長

福 山 厚 明 一尉

の4名が那覇署を訪れ、長山署長、大田次長等に署長室で事情を説明した。この事情説明の折にも、琉大の過激派学生約50名が那覇署に押しかけ「学園に警察権を介したのはどういふことか」と署長に面会を求め約30分間同署前で警察側と対したが、土曜日の午後で同署側で面会に応じなかつたため、3日(月曜日)再び抗議するということで学生側は引揚げた。

9 当事務所としては、同日(1日)午後5時頃、前記西村三佐に概要説明を求めるとともに、那覇署当直主任(国吉警部補)および那覇署次長(大田警視)に事案内容を照会し、翌2日正午頃、総理府特選局

(総務課西井係長) へとりあえず本件概要を電話報告 (連絡) し
た。

なお、本件に関する地元新聞の報道では、自衛隊側が琉大見学
を目的に構内に立ち入ったかのようになっている (琉大学生側と
しても学校当局に見学の許可を事前に受けて自衛隊が立ち入った
かどうか説明を求めている。) が、事情は前述のとおり旧第 3 2
軍司令部隷下附近における戦史説明が講師の熱意のあまり思わず
当初のスケジュールに含まれてない琉大構内における地形説明に
まで及んで不測の事態を惹起したものであつて、自衛隊側に特別
の意図があつたものとは思われない。そこで、7 月 3 日、この旨
琉球大学学生部 (次長中村盛和教授) に誤解のないよう説明する
とともに、自衛隊側連絡責任者 (西村三佐) にも本件事案発生直
後であるので、自衛隊幹部候補生研修の次部隊 (7 月 2 日 ~ 7 月
4 日航空自衛隊 155 名、7 月 5 日 ~ 7 月 9 日陸上自衛隊 165
名) の旧第 3 2 軍司令部隷下附近における戦史研究については特
に敵を討たぬよう自重することを要請しておいた。

本信平送付先

外務省北米局長 警察庁警備局長

北米局長
参事官
北米課長

総南連第1675号
昭和42年7月4日

写

外務省北米局長 殿

那覇日本政府南方連絡事務所長



自衛隊員の来島の際の事故防止に関する件

6月下旬陸上自衛隊幹部候補生学校長上妻正康陸将(来島時陸将補)を長とする同校所属の陸上自衛隊員165名が来島中琉球大学構内における学生との対立事件(貴局宛電話連絡及び往信総南連第1667号御参照)を惹起したが、次の如き招待状の誤記という失敗があつた。

即ち、上記上妻陸将は6月29日Fort Buckner Officers' Messにおいてカクテルパーティを主催すべく招待状を発出したところ、招待状に場所としてプラザ、ホテルと誤記しあつたため、被招待者の多く、ことに那覇から赴いた琉球政府首脳部の大部分がコザ市周辺を何回もさがし廻つたが、ついに目的を達せず帰宅した。機転をきかせ上記Officers' messに赴いた当事務所幹

部(本使は先約欠席)の言によるも、出席者は少なかつた趣きであり後日琉球政府側よりは同陸将に対し苦情を述べおいた由である。又不連なことにプラザホテルなる安価な連れ込み宿のホテルがコザに現実にあることが判明した。

上記二つの事例が発生したについては当該自衛隊側にもしかるべき事情もあり又不連が重つたことは存するも、沖縄側関係者及び一般住民(琉大事件は三面トップ記事として新聞に報ぜられた)に対し自衛隊の威信を害し島民に及ぼす影響も悪いと存せられる。

本使着任直後自衛艦「あまつかぜ」が帰朝に際し大量の免税品を持ち帰つて、日本において問題になつたこともあつたところ、自衛隊員の来島に際しては、十分な準備手続き及び厳正なる振舞ひが要望される次第であるので関係ある向にしかるべく注意を喚起せられたい。

なお、本信趣旨は、自衛隊員の来島の可否の論議とは何ら関係ないので念のため申し添える。

本信は特運局長のみへ送付にあり。この字は貴局長のみに送付した。特運局長は、この字が貴局長に送付しているのを知らせている。

局長	河内
副局長	吉田
主任	坂元
副主任	川崎
中田	
橋本	
黒須	



日 本 政 府

ソガヒ 万博

大政事外外務官
事務次長
大臣官舎総務課長
備後支会事務
総人電原計
参(下任)
参(旅移)

参地中東
北西
参(旅移)
参(中東)
参(東洋)

近ア提議
参(近ア)
次総経國万
長協協長系
参(協長)
参(協長)
参(協長)
参(協長)
参(協長)
参(協長)

注意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

94 電信写

総番号(TA) 30846 主管
69年7月19日15時15分 米北
69年7月19日16時23分 本省

外務大臣殿 岸沖總事務所長

自衛隊幹部の主席表敬(連)
才288号 平(秘扱) 至急
(総務長官へ 才288号)

来島中の陸上自衛隊幹部候補生学校ウメズ一佐は19日午前屋良主席を表敬訪問し、約15分間談話した。(今回の自衛隊各指揮官の中主席に直接面談して表敬したのはウメズ一佐だけである。)主席は天候の話等雑談して「だが「沖縄ではどういう行動をしますか」と質問し、ウメズ一佐より「半分が戦史の研修、半分が米軍施設の見学です」と回答し、和やかに終始した。

外務省

秘

注意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

ウメズ一佐は才288号16日平良那覇市長(社会大衆党)を表敬訪問したが市長も旧軍時代の思い出話をして和やかな雰囲気であった。民族主義的と稱される当地革新陣営の一部の人々の体質を窺わせるものであろう。
(3)

外務省

秘

